

CHOKUBINE

～和歌山県の食品ロス削減～
地産地消型 販売システム

和歌山大学大学院

うめみかん

中村綾乃

佐藤眞宏

目次

1. 背景

2. 提案内容

3. 提案内容の効果

4. まとめ

目次

1. 背景

2. 提案内容

3. 提案内容の効果

4. まとめ

コロナの影響

全国のコロナ禍における飲食店の売上状況



緊急事態宣言により売上が
激減



業者への需要が減少し、
困っている生産者が多数



給食用の牛乳2000キロ余を廃棄処分 休校の影響 静岡 富士宮

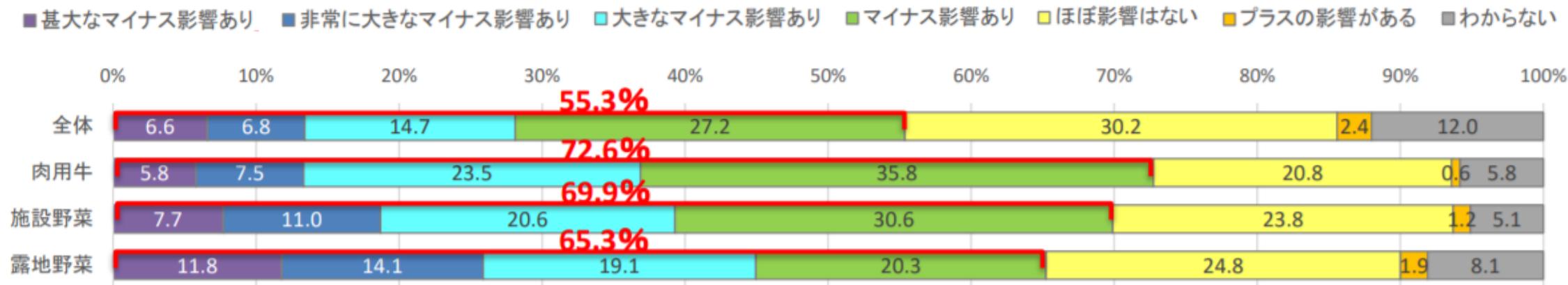
2020年3月5日 19時15分

新型コロナウイルスの感染拡大で小中学校などが休校になるなか、静岡県富士宮市で給食用の牛乳をつくる会社は、牛乳2000キロ余りを廃棄処分しました。

新型コロナウイルスにより、業者への需要が減少

農業景況の悪化

新型コロナウイルス感染症拡大による農業の売上高の影響

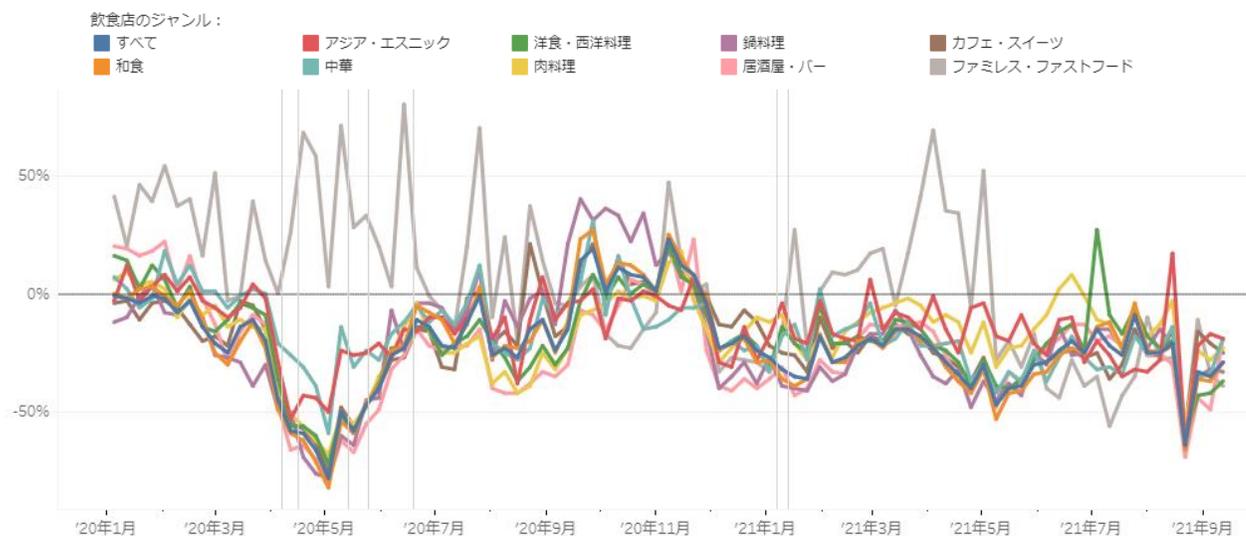


マイナスな影響ありと回答 全体で**55.3%**

コロナにより飲食店などへの供給が減少したため、
売上高に**大きな影響**

和歌山県内の飲食店情報閲覧数

和歌山県の飲食店の売上データがないため、飲食店情報閲覧数データを調査



和歌山県内にある**飲食店閲覧数の減少**

予約数と閲覧数に強い相関がある
→**予約数も減少**

売上が低下している可能性が高い

和歌山県内の農業景況が悪化しているのではないか

食品ロス

事業系食品ロス



- ・返品
- ・売れ残り
- ・食べ残し

年間

324万t

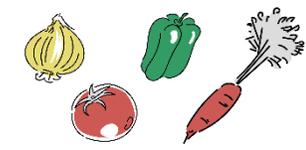
家庭系食品ロス



- ・食べ残し
- ・過剰除去
- ・直接廃棄

年間

276万t



食品ロス

年間

600万t

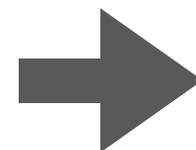
隠れ食品ロス



規格外の野菜

=

出荷基準を
満たさない野菜



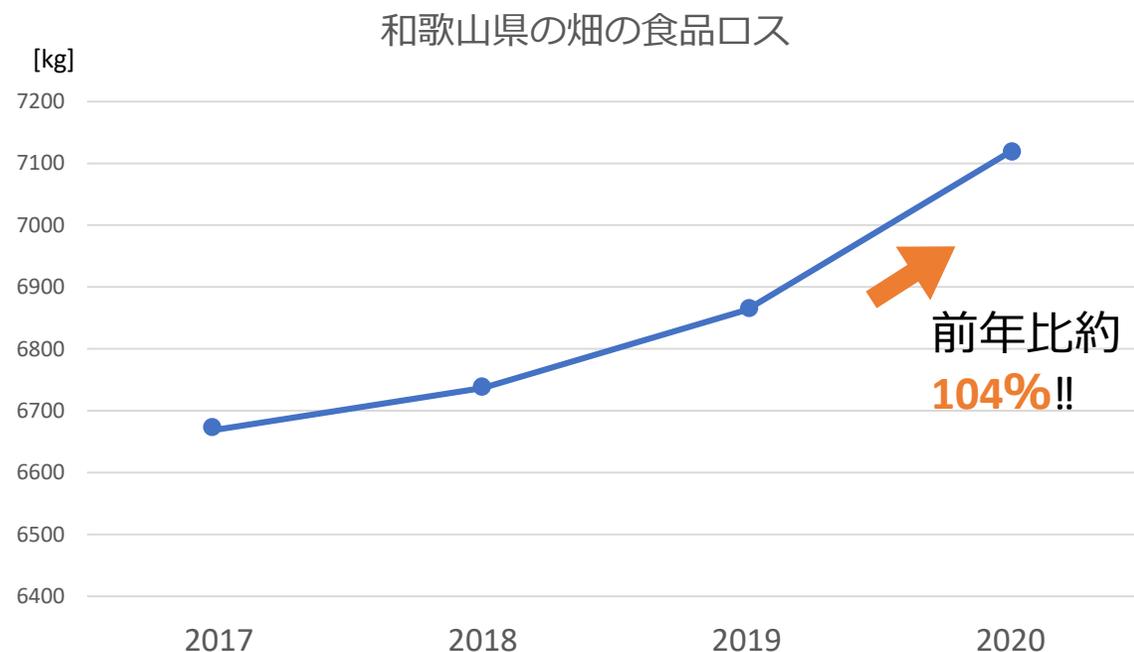
隠れ食品ロス

和歌山県では、
生産数の12%~14%^{*}前後の量が規格外野菜の廃棄量と推測

※ 収穫量－出荷量を畑の隠れ食品ロスとし、「畑の隠れ食品ロス÷収穫量」から算出

隠れ食品ロス

畑の隠れ食品ロス（未出荷量） = 収穫量 - 出荷量 と定義



畑の食品ロスは毎年増加、
特に**2019年から2020年の増加**が大きい

新型コロナウイルスにより、
畑の食品ロスが増加している

課題解決方法①～地産地消～

地産地消とは

地元で生産されたものを地元で消費すること

地産地消の
メリット

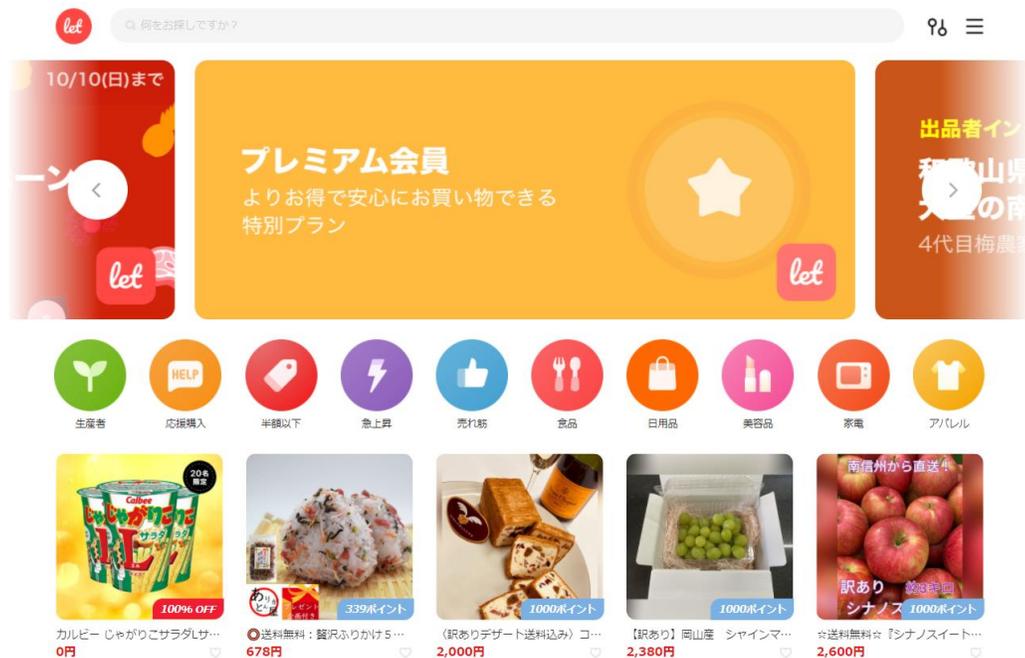
- 規格外野菜の販売が可能
- 「生産者」と「消費者」の結びつきの強化
- 地域の活性化
- 流通コストの削減 など

和歌山県のおいしい食材を和歌山県で消費しよう！

課題解決方法②～ECサイトの活用～

食品ロスを助ける例

食品ロス削減マーケット「LET」



- 😊 誰でも出品可能
- 😊 値段を自由に設定可能
- 😞 送料が必要
- 😞 発送や梱包の手間
- 😞 参入ハードルが高い

自由度は高いが、負担が大きい

現状まとめ

コロナ禍により、

- ・ 飲食店の売上の減少
- ・ 農業景況の悪化
- ・ 隠れ食品ロスの増加



売れ残った生産物を地元で気軽に出品・購入ができる
システムの提案

目次

1. 背景

2. 提案内容

3. 提案内容の効果

4. まとめ

提案システム

LINEのオープンチャットで
地域の生産者と消費者をつなぐ

CHOKUBINE

直売 + LINE

廃棄予定の売れ残った野菜たちを地域で売買する
ECサイトと直売所を担ったシステム

想定する利用者



生産者

規格外野菜など販売不可能な
野菜が余ってしまっていて困っている

販路を拡大したいが、
ハードルが高いと感じている

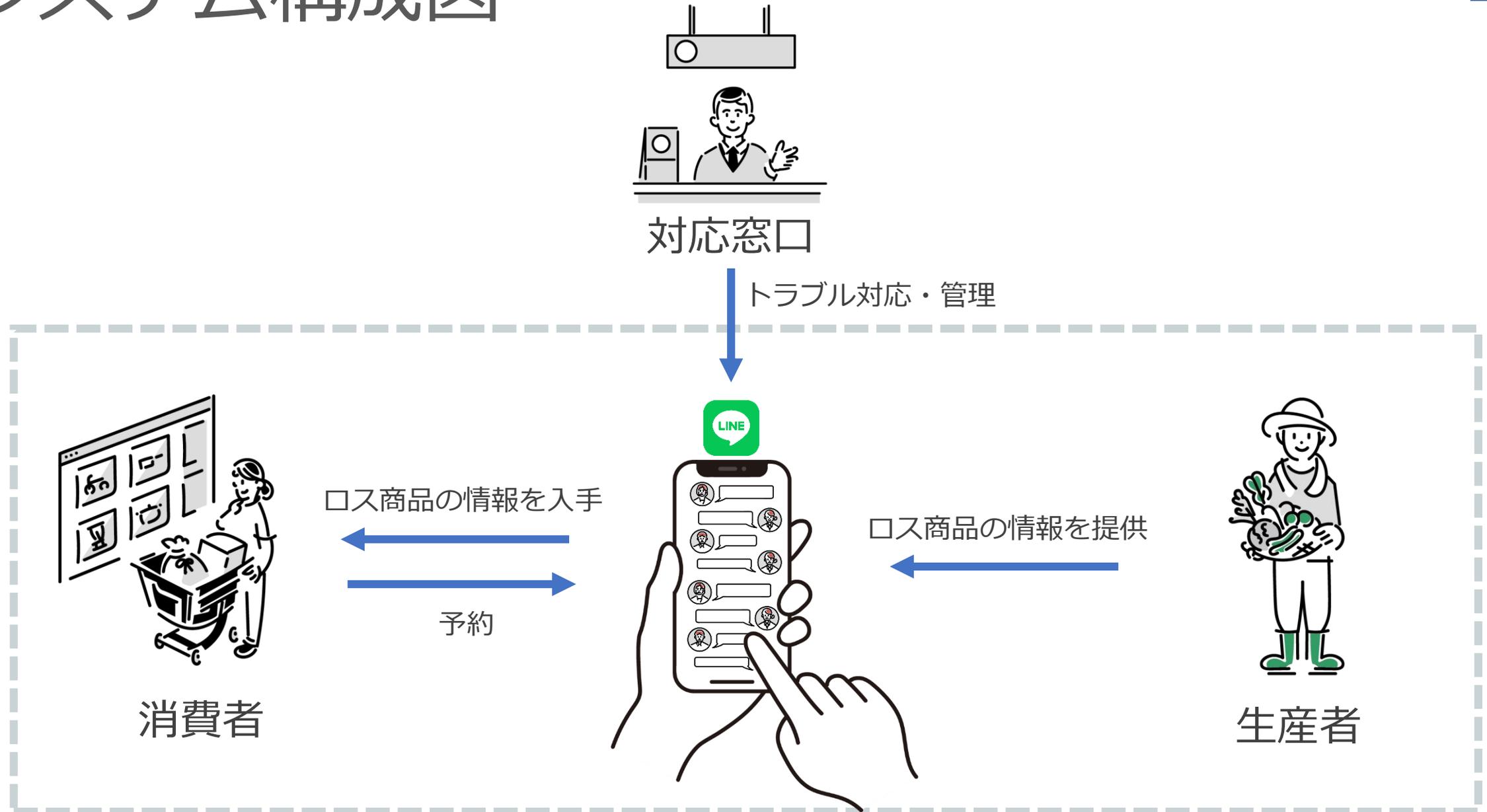


消費者

できるだけ安くて新鮮な野菜を
購入したい

作り手の顔が直接わかる方が
安心できる

システム構成図



システム利用の流れ（生産者）

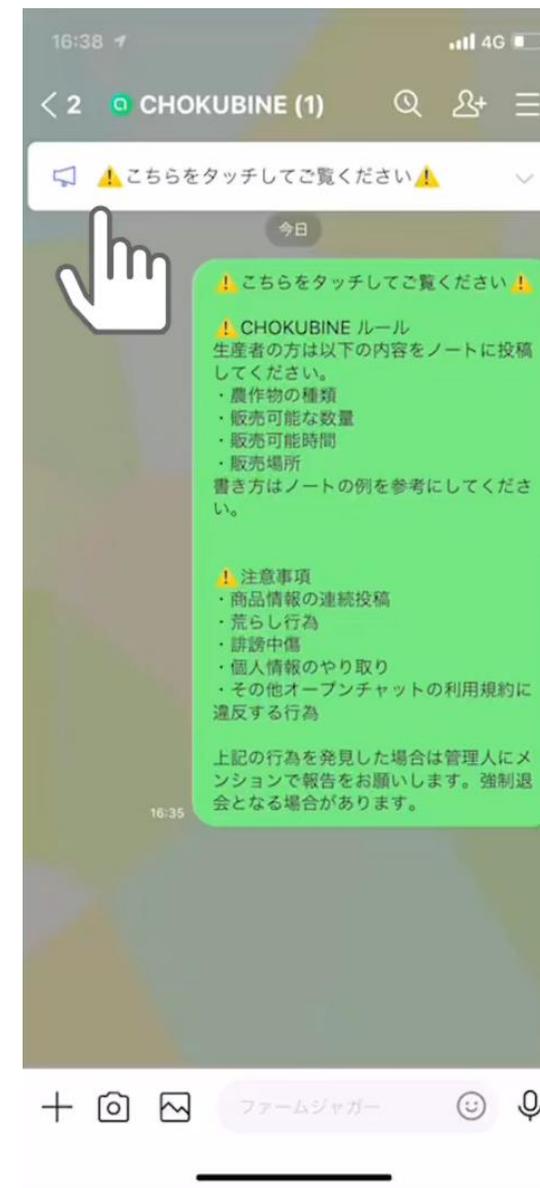


生産者

LINEのオープンチャットに
名前と写真を登録

オープンチャットの**ノート**に
販売する**野菜の情報**を投稿

消費者が訪問した際に販売



システム利用の流れ（消費者）



購入者

LINEのオープンチャットに登録

欲しい商品があればノートにコメント

記載した位置情報の場所に訪問し、購入



目次

1. 背景

2. 提案内容

3. 提案内容の効果

4. まとめ

システム導入のメリット



生産者

販売できなかった食材を販売可能

販路拡大のハードルが低い

消費者に直接提供する働きがい



消費者

安くて新鮮な野菜を購入可能

作り手の顔がわかる安心感

実物を見て購入できる納得感

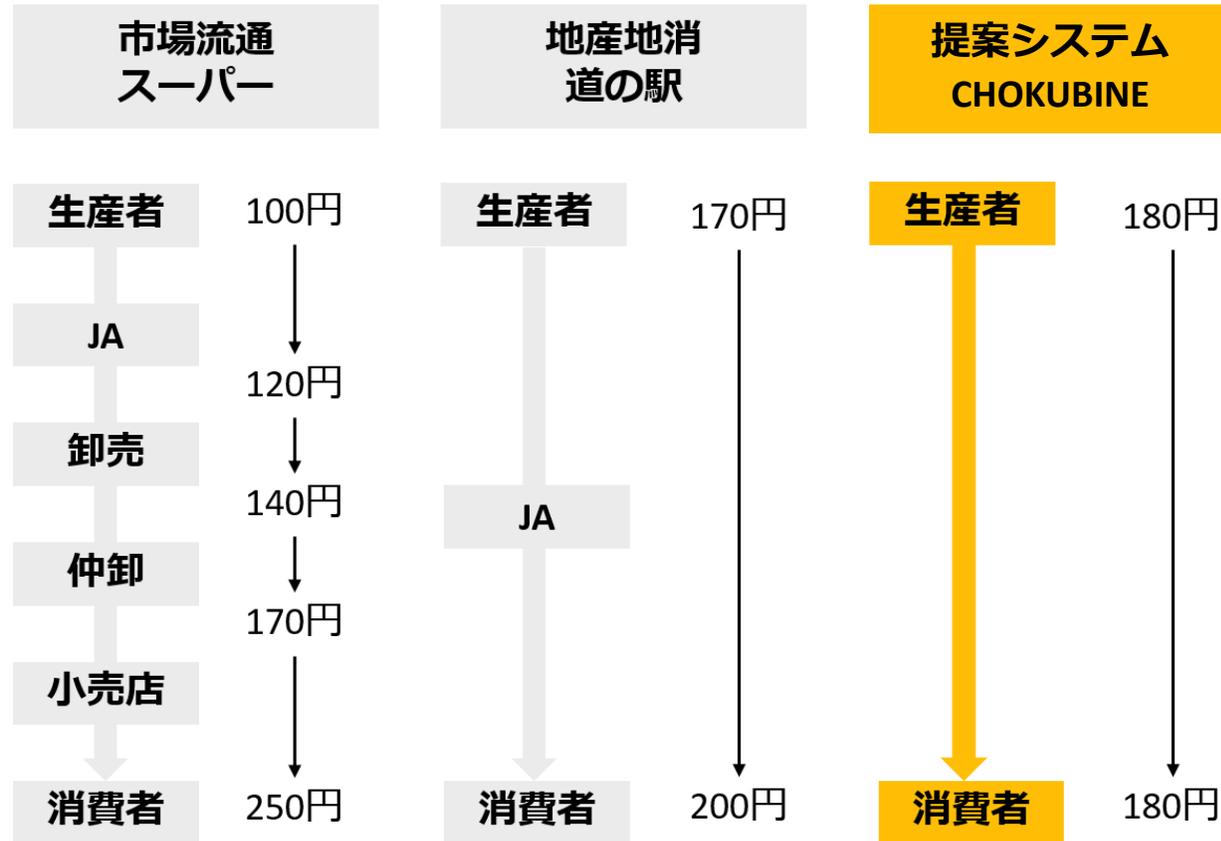
自治体

導入費用が
不要

地産地消で
地域活性化

食品ロス問題に
貢献

効果



地産地消により
中間コストを抑制

消費者に安く、
生産者により利益が出る
販売を行うことが可能

市場流通と地産地消の販売価格の比較

※価格は一例です

目次

1. 背景

2. 提案内容

3. 提案内容の効果

4. まとめ

CHOKUBINE

LINEのオープンチャットを活用した
地域の生産者と消費者をつなぐシステムの提案

地産地消で食品ロス問題の解決へ

今後の展望

より利用してもらうために



- 予約が可能なシステムの構築
- 地域ごとのオープンチャットの作成
- 利用促進のための宣伝方法の検討

地域活性化のために



- 農家以外のオープンチャットを作成
- 和歌山県内のリンクをまとめる